



アーツカウンシルさいたま
2024年度アニユアルレポート

2024.4-2025.3
**ANNUAL
REPORT**

アーツカウンシルさいたま2024年度アニュアルレポート

発行日:2025年10月31日

発行者:アーツカウンシルさいたま

デザイン:川瀬あゆみ

印刷:ときわ印刷株式会社

お問合せ

アーツカウンシルさいたま(公益財団法人さいたま市文化振興事業団内)

〒336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1さいたま市文化センター4階

営業時間/ 火～土曜日9:00～17:00(日・月・祝日休み)

※月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

Tel/ 048-767-5350

E-mail/ arts council@saitama-culture.jp



令和7年度 文化庁
文化芸術創造拠点事業

アーツカウンシル
さいたまの寄附
窓口を開設しました!



寄附窓口はこちら

MESSAGE

アーツカウンシルさいたまは「クリエイティブな生活都市をつくる」をスローガンに、創設された支援組織です。2024年度は、【さえる（文化芸術活動支援事業）】、【つくる（文化芸術創造事業）】、【ふかめる（調査研究事業）】の3つの方針に基づき、事業を展開いたしました。

【さえる】事業では、文化芸術活動に対する助成事業として、「さいたま文化芸術都市創造助成金」を実施し、2023年度と比較して支援団体数が10団体増加するなど、文化芸術団体等との関係性の拡大に繋げることができました。また、継続して開設している「生活と文化の相談窓口」に加え、2024年度からの新規事業として、税理士や地域メディアの編集長等、専門家を招いてスキルアップやノウハウを学ぶ「レクチャー+出張相談「文化活動のどうしよう?」」を実施し、市民による文化芸術活動のレベルアップに寄与いたしました。

【つくる】事業では、さいたま国際芸術祭等の取組により創出されたコミュニティ等を活かしたプログラムとして「ところでなにする?:さいたまアーツコモンズツアー2024」を実施したほか、市内にアーティストが滞在し、創作活動や発表、地域住民との交流などを行う「アーティスト・イン・レジデンスさいたま事業」を実施し、市民が日常的に文化芸術に親しむ環境づくりを進めました。また、さいたま市の魅力を新規性のある取組で発信するプロジェクト「空想するさいたま」では、盆栽をテーマとしたデジタル作品“Sleeping Memory”を展示し、さいたま市の文化資源の新たな魅力を開拓いたしました。

【ふかめる】事業では、外部から研究員（アソシエイト）を公募し、連携して調査研究を行う「研究アソシエイト事業」を進め、2022年度から継続して調査研究した成果をレポートとして取りまとめたほか、アーツカウンシルさいたまの活動を通じて蓄積した知見を基に、さいたま市の文化政策に対する提言を実施いたしました。

この一年、アーツカウンシルさいたまの活動において、多くの方から多大なるご尽力を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

今後も、市民の文化芸術活動への効果的な支援のあり方を検討し、さいたま市を文化芸術の側面から支える事業を展開してまいります。

アーツカウンシルさいたま機構長 石原 光親

CONTENTS

- 02 アーツカウンシルさいたまについて
- 03 主な事業内容
 - 文化芸術活動支援事業
 - 04 ・さいたま文化芸術都市創造助成金
 - 08 ・生活と文化芸術活動の橋渡し(リエゾン)事業
- 文化芸術創造事業
- 10 ・市民参加型アートプログラム
「ところでなにする?:さいたまアーツコモンズツアー2024」
- 12 ・アート資源調査
- 13 ・アーティスト・クリエイターのための
アートスペースツアーinさいたま市
- 14 ・さいたま文化発信プロジェクト「空想するさいたま」
“Sleeping Memory”
- 16 ・アーティスト・イン・レジデンスさいたま事業
- 調査研究事業
- 19 ・関東におけるアーツカウンシルの情報交換会
「関東芸術文化中間支援ネットワーク」
- ・アーツカウンシル・ネットワーク
- 20 ・研究アソシエイト事業
- 22 ・政策提言
- 23 ・2024年度事業報告会
- 24 ■広報・発行物
- 25 プログラムディレクターより

アーツカウンシルさいたまについて

アーツカウンシルさいたまは、文化芸術を支援する専門組織として、2022年10月にさいたま市に創設されました。あらゆる人に文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出することを目指し、「暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会の増加」「文化芸術の新たな創造環境の創出」「文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考えること」に取り組みます。

2024年度は、さいたま市内の文化芸術団体等への助成支援をはじめ、外部から専門家を講師として招き、レクチャーと出張相談を行う「レクチャー+出張相談」、さいたま市の魅力ある文化をデジタルコンテンツで発信する「空想するさいたま」、公募した研究員と連携して文化芸術活動に関する研究を行う「研究アソシエイト事業」などを展開しました。

ビジョン

あらゆる人に、文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出する

ミッション

- 市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やします
- 文化芸術の新たな創造環境を創出します
- 文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考えます

組織体制

事務局

- (公財)さいたま市文化振興事業団に設置
- 文化芸術に造詣が深い専門人材であるプログラムディレクター(以下、PD)と、その補佐を行うプログラムオフィサー(以下、PO)を設置し、専門性を生かした幅広い支援を行う

2024年度アーツカウンシルさいたま スタッフ

機構長: 小野瀬 淑子

PD: 森 隆一郎

PO: 三田 真由美(5月~)

プログラムコーディネーター(以下、PC):

伊藤 崇／米本 大樹(~9月)／

齋藤 淳(10月~)／佐藤 安里紗

アドバイザリーボード

- 運営に関する相談等を行う有識者組織を設置
- 文化芸術活動の支援に関する方向性やアーツカウンシル取組内容のほか、市への政策提言等に対する助言を行う

芹沢 高志 (P3 art and environment 統括ディレクター、さいたま国際芸術祭2023プロデューサー)

石上 城行 (埼玉大学教育学部教授、彫刻家)

小沢 剛 (東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授、美術家)

小林 桂子 (日本工業大学先進工学部情報メディア工学科准教授、元・日本芸術文化振興会プログラムオフィサー)

若林 朋子 (プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授)

さいたま市文化振興事業団



ささえる

さいたま文化芸術都市創造助成金

- 文化芸術都市創造事業
- 文化芸術を生かした地域活性化事業

生活と文化芸術活動の橋渡し（リエゾン）事業

- 相談窓口
- マッチングイベント「クリエイティブの地産地消をめざすビジネスネットワーキング会」
- レクチャー+出張相談「文化活動のどうしよう？」

つくる

- 市民参加型アートプログラム「ところでなにする？：さいたまアーツコモンズツアー2024」
- アート資源調査
- アーティスト・クリエイターのためのアートスペースツアー in さいたま市
- さいたま文化発信プロジェクト「空想するさいたま」“Sleeping Memory”
- アーティスト・イン・レジデンスさいたま事業

ふかめる

- 関東におけるアーツカウンシルの情報交換会「関東芸術文化中間支援ネットワーク」
- アーツカウンシル・ネットワーク
- 研究アソシエイト事業
- 政策提言
- 2024年度事業報告会

- 広報・発行物

さいたま文化芸術都市創造助成金

概要

文化芸術都市の創造に向けて、市民の自主的な文化芸術活動の促進およびさいたま市の文化芸術の振興を図るため、文化芸術団体等が市内で実施し、一般に公開する文化芸術事業に対して行っている助成事業です。

①上限額20万円(1/2助成)の「文化芸術都市創造事業」

②上限額200万円(10/10助成)の「文化芸術を生かした地域活性化事業」があります。

この助成事業は、2022年度までさいたま市が実施していた「文化芸術都市創造補助金」を移管し、2023年度よりアーツカウンシルさいたまが実施しています。

事業別の特色として「文化芸術都市創造事業」では、さいたま市で文化芸術活動を続けていること自体を貴重なことと捉え、提案のあった全企画を採択しました。当助成により、今後も市民が気軽に文化芸術活動ができるまちとしての存在感を高めていきたいと考えています。

「文化芸術を生かした地域活性化事業」では、地域のまつりに芸術に関するプログラムを取り入れたものや、地域密着型の市民映画祭、現代美術に特化したアートフェスティバルなど、規模の大きな事業の応募がありました。一方、パブリックアートを活用したワークショップなど中規模の企画提案もあり、様々な規模の事業を応募しやすくする点で今後の助成制度の設計においても参考となりました。

応募状況としては、「文化芸術都市創造事業」「文化芸術を生かした地域活性化事業」とともに、新規団体からの応募が散見され、申請数、申請金額ともに2023年度と比べ増加しました。

採択事業については、事業の進め方についての助言や、広報物配架のサポートなど、団体への伴走支援を行いました。

2024年度実績

	申請数 (件)	採択数 (件)	申請金額 (円)	採択金額 (円)	交付金額 (円)
①文化芸術都市創造事業 (上限20万円)	66	66	11,162,000	9,979,000	9,691,000
②文化芸術を生かした 地域活性化事業 (上限200万円)	13	9	23,716,000	10,011,000	10,011,000
合計	79	75	34,878,000	19,990,000	19,702,000

●「文化芸術都市創造事業」採択団体 66件

No.	団体名	事業名	開催日	会 場	来場者数
1	大宮美術家協会	第35回大宮美術家協会展	4/5~11	RaiBoC Hall	667人
2	埼玉県茶道連盟	埼玉県茶道連盟 呈茶 講演会	4/20	埼玉会館	138人
3	さいたま市合唱浦和の会	春の合唱祭	4/29	さいたま市文化センター	800人
4	ルナ・マンドリーノ	ルナ・マンドリーノ 第39回定期演奏会	4/29	埼玉会館	1,300人
5	オフィスノイ	さいたまハートフルコンサート Vol.11	5/5	埼玉会館	295人
6	与野吹奏楽団	与野吹奏楽団第26回定期演奏会	5/12	さいたま市文化センター	638人
7	大宮器楽協会	第51回さいたま市民音楽祭おおみや 「器楽フェスティバル2024」	5/18	彩の国さいたま芸術劇場	300人
8	リリカ・ルピス	20th anniversary リリカ・ルピス 第5回演奏会	5/19	彩の国さいたま芸術劇場	310人
9	女声コーラス 野ばら	100人の歌声 コレクション#05 「スコットランド・アイルランドの名曲 ～ジョン・ラターの世界」	6/8	浦和コミュニティセンター	91人
10	さいたまヌーベルバーグ 写真集団	第9回さいたまヌーベルバーグ写真展	6/11~16	プラザノース	789人
11	アンサンブル・ショコラ	アンサンブル・ショコラコンサートvol.3 ショコラアソートコンサート	6/15	RaiBoC Hall	130人
12	浦和ギターアンサンブル	浦和ギターアンサンブル 第24回定期演奏会	6/16	埼玉会館	354人
13	埼玉県舞踊協会	第48回ステージ1~パレエ・モダン ダンスの競演～	6/23	彩の国さいたま芸術劇場	542人
14	さいたま市中央区美術家協会	第22回さいたま市中央区美術家協会展	6/24~29	与野本町コミュニティセンター	605人
15	大宮フィルハーモニー管弦楽団	大宮フィルハーモニー管弦楽団 第46回定期演奏会	6/30	さいたま市文化センター	684人
16	音楽を楽しむ会	みんなで楽しむ子ども音楽体験 シリーズ	7/7	岸町公民館	65人
17	大宮シンフォニーオーケストラ	大宮シンフォニーオーケストラ 第19回定期演奏会	7/13	彩の国さいたま芸術劇場	300人
18	さいたま舞台芸術振興社団	オペラって、なあに?	7/15	さいたま市文化センター	78人
19	0歳からのおんがくかい 実行委員会	～おんがく好きのこどもたち集まれ!～ 0歳からのファミリーコンサート	7/27	埼玉会館	382人
20	浦和ユースオーケストラ	浦和ユースオーケストラ 第16回定期演奏会	8/12	彩の国さいたま芸術劇場	580人
21	Office8次元	鳴らして楽しむミュージカル 「セロ弾きのゴーシュ」	8/17	RaiBoC Hall	604人
22	コール・フロイデ	コール・フロイデ第5回演奏会	9/8	彩の国さいたま芸術劇場	442人
23	さいたま合唱協会おおみや	第52回さいたま市民音楽祭おおみや (合唱フェスティバル)	9/14	ソニックシティ	388人
24	朗読グループ《声の会》	リーディングドラマ われらが古事記	9/21	彩の国さいたま芸術劇場	540人
25	彩多会	第6回彩多会展示会	9/30~10/6	大宮図書館	1,055人
26	さいたま市浦和吟剣詩舞道連盟	2024さいたま市民文化祭 第55回近代吟詠と剣詩舞の会	10/6	さいたま市文化センター	200人
27	音故知新	音故知新・秋のファミリーコン サート「おとボックス2024」	10/6	RaiBoC Hall	150人

No.	団体名	事業名	開催日	会 場	来場者数
28	世界文化料理交流会	秋を楽しむコンサート2024	10/6	岸町公民館	70人
29	車いすダンス・ムーブの会	車いすダンス・ムーブの会第20回発表会	10/13	プラザウエスト	50人
30	アルス ノヴァ ウインドシンフォニー	アルス ノヴァ ウインドシンフォニー 秋のコンサート	10/13	プラザノース	190人
31	ゆうかり女声合唱団	ゆうかり女声合唱団第13回演奏会	10/14	彩の国さいたま芸術劇場	600人
32	浦和新舞踊連盟	第48回浦和新舞踊連盟発表会	10/14	埼玉会館	1,500人
33	趣味の会文化祭実行委員会	趣味の会文化祭(①全日本写真連盟 浦和支部写真展、②七彩会作品展)	①10/15~20 ②10/22~26	①埼玉県立近代美術館 ②市民活動サポートセンター	1,020人
34	さいたま市三曲協会	2024さいたま市民文化祭参加 第24回三曲演奏会	10/26	プラザノース	250人
35	コールファミリー	コールファミリー 50周年記念コンサート	10/27	彩の国さいたま芸術劇場	500人
36	セリーズの会	彩の国 歌と音楽の祭典 セリーズの会コンサート	10/29	RaiBoC Hall	340人
37	さいたま市音楽家協会	さいたま市音楽家協会 第55回記念定期演奏会	11/2	さいたま市文化センター	230人
38	社会芸術・寺山支部 炭焼の会	野良の藝術2024	11/2~4,11/8~10	さぎ山、延命寺	900人
39	さいたま Jr. オーケストラ	第26回国際ジュニアオーケストラ フェスティバル	11/3	RaiBoC Hall	1,000人
40	「瑛九へのオマージュ展」実行委員会	瑛九へのオマージュ展	11/8~24	柳沢画廊 他	400人
41	ヒアシンスハウスの会	第20回ヒアシンスハウス夢まつり	11/10	別所沼会館	50人
42	コ一口あじさい	コ一口あじさい 20周年記念コンサート	11/15	RaiBoC Hall	280人
43	さいたま市音楽連盟	さいたま市音楽連盟 第45回定期 演奏会 おんれんコンサート～みんなで (子どもも大人も)楽しむ音楽の午後～	11/16	彩の国さいたま芸術劇場	130人
44	さいたま市浦和俳句連盟	2024年度さいたま市浦和俳句連盟 文化祭俳句大会	11/17	浦和コミュニティセンター	51人
45	一般社団法人さいたま スーパーシニアバンド	さいたまスーパーシニアバンド 第17回定期演奏会	11/17	プラザウエスト	364人
46	さいたま市大宮郷土芸能保存会	2024年さいたま市大宮郷土 芸能保存会 お囃子大会	11/23	さいたま市健康福祉センター 西楽園	295人
47	アンサンブル・ソアーヴェ	アンサンブル・ソアーヴェ 第13回定期演奏会	11/24	彩の国さいたま芸術劇場	176人
48	おおみや市民吹奏楽団	おおみや市民吹奏楽団 第31回定期演奏会	12/1	埼玉会館	690人
49	浦和吹奏楽団	第10回浦和吹奏楽団 POPS CONCERT	12/1	さいたま市文化センター	550人
50	Kohsetsu,24/7 (コーワツ トウェンティーフォーセブン)	Dance Suplex PUPA	12/1	プラザウエスト	463人
51	るふとばうぜ	るふとばうぜ～空気のおやすみIV～ 埼玉でクラシック音楽を	12/8	音楽サロン TUTTO BUONO	25人
52	男声合唱団コールバーンズ	コールバーンズ 創立10周年コンサート	12/28	RaiBoC Hall	310人
53	歌声の集い	みんなで楽しむコンサート	2025.1/13	岸町公民館	55人
54	ソフィア	明るい街づくりコンサート	2025.1/19	さいたま市文化センター	50人
55	UH(ウー)	B,W-Gray Zone vol.1	2025.1/25~26	GAFU-gallery&space-	27人

No.	団体名	事業名	開催日	会 場	来場者数
56	女声あんさんぶるハミングバーズ	Let's Enjoy オペラコンサートVol.11	2025.2/1	RaiBoC Hall	116人
57	さいたま市岩槻美術家協会	第4回岩槻区民展	2025.2/8~11	岩槻駅東口コミュニティセンター	557人
58	埼玉ルミナス吹奏楽団	第5回定期演奏会	2025.2/11	プラザウエスト	300人
59	埼玉県いけばな連合会	第59回埼玉県いけばな連合会展	2025.2/14~16	埼玉会館	2,650人
60	大宮吹奏楽団	大宮吹奏楽団 第35回定期演奏会	2025.2/16	さいたま市文化センター	730人
61	浦和美術家クラブ	第17回浦和美術家クラブ展	2025.2/26~3/2	うらわ美術館	740人
62	Arts Lab/Garden	街の中、やさしい場所で、呼吸する	2025.3/13, 18,20,27,29	アトリエあづき倉庫 他	18人
63	大宮箏曲協会	第53回箏曲演奏会	2025.3/20	RaiBoC Hall	200人
64	コーラル・ソシア	コーラル・ソシア 4th concert	2025.3/29	彩の国さいたま芸術劇場	413人

※上記のほか2団体については、申請取り下げのため省略しています。

※団体からの実績報告をもとに掲載しています。

●「文化芸術を生かした地域活性化事業」採択団体 9件

No.	団体名	事業名	開催日	会 場	来場者数
1	好きです指扇！ アートフェスタ実行委員会	好きです指扇！アートフェスタ	8/17	指扇中学校体育館 他	3,000人
2	新と心プロジェクト実行委員会	Renew our minds 新と心プロジェクト	9月~11月	さいたま新都心 With Youさいたま 他	4,582人
3	ノーマライゼーション・アート・ コミュニティー実行委員会	ノーマライゼーション・アート・ コミュニティー in おおみや	9/28~10/4、 10/21~10/31	JR大宮駅コンコース 他	12,000人
4	秋ヶ瀬フェス実行委員会	秋ヶ瀬フェス2024	10/20	秋ヶ瀬サーキット場 隣	300人
5	人形のまち岩槻総合 文化芸術祭実行委員会	いわつき総合文化芸術祭 2024	11/9~17	岩槻駅前クレセントモール 他	5,600人
6	さいたま夢KANA 音楽祭実行委員会	さいたま夢KANA音楽祭2024	11/17	さいたま市文化センター	266人
7	アーツさいたま・きたまち 実行委員会	アーツさいたま・ きたまちフェスタ Vol.11	2025.1/11~13	プラザノース 他	623人
8	岩槻映画祭実行委員会	第9回岩槻映画祭	2025.2/8~9	さいたま市民会館いわつき	208人
9	美術と街巡り・ 浦和実行委員会	美術と街巡り・浦和	2025.3/4~23	ONVO SALON URAWA 他	4,555人

※団体からの実績報告をもとに掲載しています。

生 活と文化芸術活動の橋渡し（リエゾン）事業

●相談窓口

概 要

市内の文化芸術を軸とした活動を行う団体や個人をサポートする相談窓口を開設し、活動や助成事業に関する相談のほか、市内の文化資源にかかる情報提供やマッチングなどを行っています。
メールでの問い合わせに対応するほか、希望者にはアーツカウンシルさいたまPDおよびPOが相談員となり、対面相談を行いました。

2024年度実績 全63件

●マッチングイベント

「クリエイティブの地産地消をめざすビジネスネットワーキング会」

概 要

地域の企業がクリエイティブ人材と出会う機会や、さいたま市に住むクリエイターが地域で仕事を見つけられるような環境づくりに向けた支援の一環として、ビジネスネットワーキング会を開催しました。
市内の企業とクリエイター等とのマッチングにより、地域にクリエイティブな活動を流通させ、地域のデザインを洗練させていく「クリエイティブの地産地消」を目指しました。

事業内容	開催日	会 場	講 師
・「ローカル中心で変革をデザインする」をテーマにしたゲストトーク ・参加者同士のネットワーキング会	2025.1/10	RaiBoC Hall	林 千晶 (株式会社 QO 代表取締役社長)

●レクチャー+出張相談「文化活動のどうしよう?」

概要

相談窓口の開設に加え、2024年度からは、新規事業として、文化芸術団体が活動をステップアップしていくために必要なスキルやノウハウについて、法律や税務、広報等の外部専門家を招いた出張相談会を行いました。

事業名	開催日	会場	講師
広報の基礎編	9/27	RaiBoC Hall	森 隆一郎 (アーツカウンシルさいたま PD)
地域メディアへの広報活動編	10/27	岩槻駅東口コミュニティセンター	星野 邦敏 (大宮経済新聞、浦和経済新聞編集長、株式会社コミュニティコム代表取締役) 大胡 由紀 (大宮経済新聞、浦和経済新聞副編集長)
著作権編	11/16	下落合コミュニティセンター	関 亮一郎 (一般社団法人日本音楽著作権協会 (JASRAC) 大宮支部 副支部長)
会計編 ・はじめての確定申告編 ・インボイス制度編	2025.1/22 2025.1/29	浦和コミュニティセンター RaiBoC Hall	松田 恵莉 (税理士) 飯塚 祐亮 (税理士)



10/27 地域メディアへの広報活動編



2025.1/22 はじめての確定申告編

市民参加型アートプログラム 「ところでなにする？：さいたまアーツコモンズツアー2024」

概要

さいたま市内にある、福祉、環境、教育など様々な領域で創造的な活動を行っている場所を舞台に、場所(ところ)での活動(なにする?)をアーティストと共に体験して巡る全6回のツアープログラムを開催しました。このプログラムでは、「さいたま国際芸術祭」などの取り組みにより創出された、市民などによる文化芸術活動の継続・発展を図るとともに、日常的に文化芸術に親しむ環境づくりを進めることを目的としています。

プロジェクトチーム

浅見 俊哉(プロジェクトリーダー)、三浦 匡史(プロジェクトファシリテーター)、
山本 未知(プロジェクトアーカイバー(映像))、皆川 文世(プロジェクトアーカイバー(テキスト))

【第3回アートと工場の関係編】

企画協力: 彩の国工業団地連携協議会

【第4回:詩と公園の関係編】

企画協力: 石上 城行(彫刻家・アーツカウンシルさいたまアドバイザリーボード委員)、小西 悟士(埼玉大学教育学部附属中学校教諭)



9/28 第1回：語りと福祉の関係編 photo by 浅見 俊哉

事業名	開催日	会 場	ゲスト
第1回：語りと福祉の関係編	9/28	Cookie & Deli マーブルテラス	テンギョー・クラ（ヴァガボンド、ストーリーテラー） 若尾 明子（NPO法人クッキープロジェクト代表理事、マーブルテラス代表）
第2回：音と自然の関係編	10/19	中尾第二自然緑地	松本 一哉（音楽家、サウンドアーティスト、ドラマー） 堀江 光夫（非営利活動美緑彩生代表幹事）
第3回：アートと工場の関係編	11/8	岩槻駅東口コミュニティセンター	懸谷 直弓（美術作家） 松浦 広展（彩の国工業団地連携協議会理事兼事務局長）
第4回：詩と公園の関係編	11/30	ヒアシンスハウス、STUDIO・45	向坂 くじら（詩人） ヒアシンスハウスの会 小泉 文（STUDIO・45代表）
第5回：身体とまちの関係編	2025.1.19	南浦和駅前、一つ木公園、 STAND Coffeeコトコト&Gallery-B、 さいたま市文化センター	アオキ裕キ(ダンサー、振付家)/新人Hソケリッサ! 野口 敬(STAND Coffee コトコト&Gallery-B)
第6回：表現と場所の関係編	2025.2.22	GAFU -gallery & space-	藤 浩志(美術家) 船岡 まり子(GAFU -gallery & space-)



2025.2.22 第6回：表現と場所の関係編

アート資源調査

概要

さいたま国際芸術祭の開催を契機として、さいたま市には、主体的に芸術祭に参加し相互に交流する市民サポートーのコミュニティが形成されています。

アート資源調査は、そのセンター等の市民が、身近な文化拠点となっている市内のアート系のギャラリーやカフェ等を訪問し、そのオーナーにヒアリングをして、レポートをまとめる調査です。市内のアート関係者がよりつながりと連携を深めネットワーク形成を図るため、2021年度から調査を実施しています。

2024年度は、5ヶ所のカフェやスペースを対象に調査を行いました。

2024年度調查先

- ・水野書店&Cafe mao-mao(さいたま市岩槻区本町4-2-10)
 - ・márú(マールーウ)(さいたま市大宮区北袋町1-236)
 - ・コバルト画房(さいたま市浦和区仲町2-16-15)
 - ・Nook&Park(ヌックパーク)(さいたま市岩槻区本町3-10-17)
 - ・東光寺(さいたま市大宮区宮町3-6)



調査レポートは
こちらから
ご覧になれます

● オーブンのまっけ行、横幅は？

もしもこれが本当に本物のホウキアツアーパートをもつ、その美術館が開業するまでの間を想定してこの商店街を町作りしようと真剣らしい。しかし、町並みのことを重んじておこなう思想で、カネで買いつぶす風の開拓精神を実現してしまったのも事実、新東の運に、移転先がこれまでの20世帯以上を手に入れたのがけでない身を始めた。

■ 人物電影研究

野原町から後藤町へ、北へ15分。北の山筋の都心部から北へ15分ほど。庄内地方の一等地に「アーバンな、新鮮な」花屋が咲き誇る華やかな庭園。先々は花屋を擴張させた複数店舗を構成した店舗内。外見には普通の喫茶店の外観。壁には「アーバン」と「アーバン」と書かれた看板。店内はオーナーとカウンターバーカー、男女2人で立って対話する。落ち着いた骨董店感の店内。先駆的の動

● 電子地圖與 GIS

マークに行け、死んでいる人や生じたから人にタバコを会うのがよくある。それに、煙草は共通であるからうらやまうらやまになっているのだが、町田さんの心の病もあり、本当に本筋が出来てゐる。他ので使っている言葉や、説いてる内容のもので、超えてはいるが、その通りに使っている墨田さんや作家さんたちもいる。そういう風で同じ立場では必ず日本家業に入れるところが、育ててはいる人も現実も見知り切っているので毎日、新築の毛糸を買おうかこのワープが、すごく良い。料理をしていて嬉しくなります。町田さんは医者。

のページを開設しました。私も同じで、例えば、西脇の「ウツコロ」が開設され、それでアートアワードを受けていたり、ちょうど取材で来店しておられたときのMayonaise(マイヨナーズ)写真展が掲載されていたり。今後も何らかの作品を店内で展示しつづけようと思わせます。

●どこにあるか？どんな？

セラピストが口から歩き歩く、お前は街頭の花屋で花束をひらくとおとす花束を口に入れる瞬間に、彼女は付ける花束が誰かによって盗まれているかの心配がかかる。運営者は、人形のまゝ、

◎ お会社業界であり、2015年「かさいたまエフエフ・2015
プロジェクト」及び「かさいたまベースボール・プロジェクト」をさして「2015
の開催」として「東京アスリートの活動と創生を目的とした公的プロジェクト」
を行なったのである。リバーパークスタジアムは開業後実績で、この
は物語が複数、2022年が開催レギュラーシーズン開幕（アツカ
パーク）として運営されている内野さんごの場所で開かれたとき
利用されている。また、建物内座席下階など各部屋部分や外観を
現存する形で実際に開催されたアーティスト、菅原、柴田、山本
ら、当時はまだアーティスト等のハビテートとして現れる、荒井由
里子、Nobuhiko Matsui（ヌーベル・バターナー）オープニング司会の吉田
「チャーリングする人気もたらす嬉しいサーキットしたい」というス
ペースを感じ共感した筆者ならびにアーティストや観客の心の波

净内部收益率：

ルティックアーティストによる「世界の文化」代議として、宝塚歌劇団を通して人々に新たな喜びを届け作らざる歩みを行なっているのである。

◆スペースの心地良さと暖かさ

Napoleon(ナポレオン)、(スマート)の「暖(ヌック)」では、運営基盤で「これまで以上に楽しく豊かな心地いい(ぬくもり)」をめざす。向こうの壁があることなど、事業運営側が抱く「暖」に対する考え方についてナップス代表は「運営側の暖心地感は、必ずしもアラウンドナップスでやっているのだろうと想像している内装もちゃんと暖の壁、植物も所用する人形専門店・美術(とくがく)の「手を使う心地良さ」という企画展などと併せて、普段ならぬ暖の手触りや暖が成る場所づくりに対する豊かな温心地感の場所」つなげて行われていると言ふ。

八郎さんは、今後の課題と展望として、「デジタル+イバント活動・スペース活用の促進・周知度・意識・価値観・文化価値、商品の創造」を挙げる。特に注目は、「人形専門店・美術(とくがく)」との連携の強化(ナップスアーティスト主導で「お祭り文化」交流会をオランダ・アートワーク展開開催)、「本屋(本店)」文化価値の再発見(ナップス本店・(スマート)本店)を中心にした地域活性化(PIA連携・小商戸連携・インクルーシブカルチャー)で躍進していくものだ。

前野社長の「温心地感の温心地感の温心地感」Napoleon(スマート)から、世界が抱く様々な新しい活動と取組みがあふれて生まれた「ナップスアーティスト」がはじめての歩みがなった。温心地感の温心地感の温心地感をもつて、そして歩んでほしい。

住所：吉林省长春市朝阳区净月大街 3188 号
代表：内部 巧志

HP : <https://bit.ly/enrnooskipark>
SNS : <https://www.instagram.com/nooskipark/>

LINE : @line/oBeyB

アーティスト・クリエイターのためのアートスペースツアー in さいたま市

概要

さいたま市で創作活動をしたいと考えているアーティスト・クリエイター向けに、市民サポーター等がアート資源調査でリサーチしたスペースをゲストと巡るツアーを開催しました。

本ツアーでは、主に映像の上映やパフォーマンス公演ができるスペースを巡る「上映・上演コース」と、美術作品の展示ができるスペースを巡る「展示コース」の、2つのコースを設定して実施しました。

ツアー終了後には、両コースの参加者にゲストやスペースのオーナーを交えたネットワーキング(交流)も行いました。

コース	開催日	会場	ゲスト
上映・上演コース	2025.2/2	①TOROto ②路地裏Garage Market ③STUDIO・45 ④GAFU -gallery & space-	額田 大志 (作曲家、演出家、劇作家)
展示コース		①STAND Coffeeコトコト&gallery- B ②ONVO SALON URAWA ③つきのみちくさ ④ギャラリー彩光舎	杉崎 栄介 (横浜市民ギャラリーあざみ野 館長)

※ツアー終了後、両コースの参加者がGAFU -gallery & space-に集まり、ゲストトークや、今回訪問しなかったアートスペースの紹介、ネットワーキングを実施しました。



上映・上演コース ③STUDIO・45



上映・上演コース ④GAFU -gallery&space-



展示コース ②ONVO SALON URAWA



展示コース ③つきのみちくさ

さいたま文化発信プロジェクト「空想するさいたま」 “Sleeping Memory”

概要

「盆栽・漫画・人形・鉄道」をはじめとするさいたま文化のデジタル空間における展開を試みる事業で、2023年度に実施したデジタル作品プラン/キュレーションプランの公募プログラムでデジタル作品プラン2位に入選したレオニード・ズヴォリンスキイ氏の“Sleeping Memory”を展示しました。

本作品は、「盆栽」をテーマにしたオーディオビジュアル作品で、植物の情報伝達を見る化する研究から着想を得て、盆栽の知覚からイメージしたさいたまの都市の記憶を「映像」や「音」で表現しています。

メインのスクリーンの作品にはセンサーがついており、両手の動きで、音や映像がリアルタイムに変化する様子を体験することができます。

アーティストのプロフィール

レオニード・ズヴォリンスキイ (Leonid Zvolinsky)

作曲家、ニューメディア・アーティスト。モスクワ音楽院作曲科首席卒業、リトフンチンテレビ・ラジオ大学音響映像芸術サウンドプロデュース科修了。現在、東京藝術大学大学院音楽研究科(音楽音響創造)在学中。Max、Arduinoなどの様々なアルゴリズムやシステムを取り入れた現代音楽やニューメディア・アートに取り組むとともに、人の聴覚特性や音の錯覚効果と芸術への応用に関する研究を行っている。

協力: 東京藝術大学キュレーション教育研究センター、さいたま市大宮盆栽美術館

作品名	開催日	会場	アーティスト
“Sleeping Memory”	2025.2/8~16 ※2/8にオープニングパフォーマンスを実施。	盆栽四季の家	レオニード・ズヴォリンスキイ ※オープニングパフォーマンス: 生命の躍動 (ふくいさほ、midorim)



Sleeping Memory



2025.2/8 オープニングパフォーマンス

アーティスト・イン・レジデンスさいたま事業

概要

国内外の多様な分野のアーティストをはじめとする文化芸術活動の担い手に対して、地域における創作活動と発表の場を提供し、地域との交流や新たな文化芸術活動が創造される機会を創出することを目的に、さいたま市内で滞在・制作・公開を行うアーティスト・イン・レジデンス事業を実施しました。

2024年度は、「小林企画」、「荒悠平たち」の2団体を選定し、さいたま市内で作品の制作と試演を行いました。「小林企画」は、AR技術を用いた映像やパフォーマンスを体験する自転車ツアーを制作しました。

「荒悠平たち」は、日常思うけれど言葉にしない程度の思考をモチーフに、バンドセットと演劇を組み合わせたライブパフォーマンスを制作しました。

それぞれ、市民を交えた作品制作や、市民を対象としたワークショップ等を実施し、地域との交流を図りました。

滞在場所

space845(さいたま市岩槻区大口639-1)

さいたま市のはしごに位置し、田園風景の向こうは春日部市と越谷市。元は住居兼事務所だった建物で、薪ストーブのある広いリビング、作業場や畑もあるオルタナティブスペース。



制作場所

NPO法人アート応援隊 浦和学院高校岩槻校舎

(さいたま市岩槻区飯塚50)

浦和学院高等学校の提携校である国際医療専門学校(旧称 東武医学技術専門学校)が2022年4月に校舎を移転し、現在では浦和学院高校の岩槻校舎となり様々な活用を行っている。



アーティストのプロフィール・企画概要

小林企画

代表 小林 遼 / 構成・演出(音響)・テキスト

1991年愛知県生まれ。

精神科医/演出家。青年団(劇団)所属。“見えないものを感じる”ことをテーマとした創作をする。

ボイスオーバーやARなどの非身体的なメディアを、土地に訪れた鑑賞者の身体が再演することで、見えない「存在感」を生み出す。鑑賞者のパフォーマティヴィティを通じて、他者や土地を想像することを探求している。

ワークショップファシリテーターとしても活動し、ヘルスプロモーション、教育、地域社会と演劇の交点を模索する。

近年は豊岡演劇祭フリンジ、Klang River Festival(マレーシア)、隅田川 森羅万象 墨に夢、横浜国際舞台芸術ミーティング2024、NEST(フィリピン)などのアートプロジェクトに参加。

制作・協力アーティスト

志村 翔太 / 演出(視覚効果)

1993年生まれ。神奈川県川崎市出身。世界旅行、事業開発を経て、IAMAS(情報科学芸術大学院大学)博士前期課程に在籍。場所の“ナラティブ”と“モビリティ”をテーマに、AIやAR、映像メディアなどのテクノロジーを活用した、オルタナティブな文学表現の可能性を追求している。主な展覧会に「ATAMI ART GRANT 2024」(2024年)、「六本木アートナイト」(2023年)など。

涌田 悠 / 振付・テキスト・声の出演

短歌を詠むダンサー/振付家。振付家として、“からだと世界の触れ合うところに生まれる言葉と踊りの関係性”に興味を持ち、2014年より自作短歌と共に踊る作品〈短歌deダンスシリーズ〉を国内外で発表。近年は異ジャンルアーティストと協同して行う街歩きリサーチによる創作に力を入れ自主企画を展開する他、からだと言葉を使った街歩きWSを開催。

歌人として、【第四回笛井宏之賞】大森静佳賞受賞。 haruka-wakuta.com

有吉 宣人 / 声の出演 渡辺 奈都、林 北斗 / 制作 サルミ・トーマス(Kamoshika Productions) / 映像撮影

滞在期間

2025.1/17~25、2/8~16、3/7~9

事業名	開催日	会 場	概 要
や ま かいこう “夜騎開封” さいたま←→鄭州	2025.3/8・9	さいたま市内各所 ※浦和美園エリアから出発し、さいたま市内各所を巡りました。	“夜騎開封”とは、さいたま市の友好都市である中国・鄭州で近年若者層の間でさかんになっている、夜間自転車に乗り、鄭州から近接都市の開封までサイクリングをしながら名物の肉饅を食べるというツーリングイベント。 鄭州市と友好都市であるさいたま市の関係をテーマとし、AR技術を用いた映像やパフォーマンスを体験するツアーを実施。



2025.3/8・9 試演

アーティストのプロフィール・企画概要

荒悠平たち

代表 荒 悠平

2010年頃よりコンテンポラリーダンスの舞台出演を中心にアーティスト活動を開始。〈まことクラヴ〉(Co.山田うん)、〈カンパニーデラシネラ〉、〈ケムリ研究室〉等、他にも出演多数。

2017年頃よりソロや他ジャンルアーティストとの共同制作に主軸を移し、彫刻家・大石麻央の作品を着た400才のサメになるパフォーマンス、フレットレスベース奏者・織原良次とのユニットfloor girl、ジャズ系のミュージシャンとのライブパフォーマンス、演劇の作演出など、活動を広く展開している。

荒悠平たち

ダンス・演劇・音楽・パフォーマンスなど多ジャンルに渡る荒悠平の活動を複数人で継続的に展開するプロデュースユニット。2023年から活動を開始。2024年から2025年にかけてひとつの戯曲を四話連続でアンソロジー上演するプロジェクトを行った。「人が集まって何かを作ってみんな楽しい」というコンセプトを掲げている。

試演出演者：荒 悠平(ダンス/演劇/音楽/小説)、阿部 真武(音楽)、遠藤 ふみ(音楽)、北川 結(ダンス)、木引 優子(演劇)、串尾 一輝(演劇)、白石 美徳(パーカッション)、中嶋 千歩(ダンス/演劇)、沼尾 翔子(歌/音楽)、水越 朋(ダンス)

滞在期間

2025.2/22～3/6

事業名	開催日	会 場	概 要
メガネってどうして よがれるんだろうな 組曲	2025.3/2	GAFU -gallery & space-	日常思うけれど言葉にしない程度の思考をモチーフに、バンドセットと演劇を組み合わせたライブパフォーマンス。 アーティストは、音楽、ダンス、演劇と多岐にわたる総勢10名のメンバーが出演。
メガネってどうして よがれるんだろうな 組曲 ワークショップ	2025.3/6	RaiBoC Hall	ダンス、演劇、音楽、おしゃべりをしながら、グループに分かれて演劇作品を制作するワークショップ。作品完成後は、作品制作の過程を追体験するようなプログラムも実施。



2025.3/2 試演



2025.3/6 ワークショップ

関 東におけるアーツカウンシルの情報交換会 「関東芸術文化中間支援ネットワーク」

概 要

関東にあるアーツカウンシルなどの団体が、幅広く意見を交換する場として、「関東芸術文化中間支援ネットワーク」を開催しました。

各自治体が設置する団体だけでなく、民間が運営する文化芸術の支援組織も招き、各団体の事業紹介や意見交換を行いました。

また、当事業にあわせて開催した事業評価に関するレクチャーでは、アドバイザリーボード委員である若林朋子氏を講師に招き、類似する団体同士が相互に評価を行う「ピアレビュー」の手法や効果、課題について理解を深めました。

開 催 日 2025年2月14日

会 場 さいたま市文化センター

参加団体 アーツカウンシル東京、アーツカウンシル前橋、公益財団法人セゾン文化財団、公益財団法人神奈川芸術文化財団、横浜市芸術文化教育プラットフォーム（認定NPO法人STスポット横浜）、公益財団法人川崎市文化財団、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団

アーツカウンシル・ネットワーク

概 要

調査研究事業における情報収集の一環として全国各地のアーツカウンシル組織のネットワークである「アーツカウンシル・ネットワーク」に参加し、各地のアーツカウンシルと情報交換を行いました。

各地の取組事例などを広く収集・分析し、助成事業、相談窓口といった、アーツカウンシルで担う事業への活用や、助成金交付団体における成果の検証等、アーツカウンシルさいたまの運営に活かしていきます。

開 催 日 第1回:7月23日

第2回:9月30日

第3回:2025年1月21日

研究アソシエイト事業

概要

外部から研究員を募集し、さいたま市の文化や芸術、表現活動における課題やトピックなどを調査・研究する事業です。市民自らの視点で地域の文化芸術を考えることに加え、さらに芸術祭のサポーターとして集う方々が、もう一步進んで、さいたままでの日常的な文化を観察、記録、考察するような活動を後押しすることなどを想定して企画しました。活動内容は、定期的な研究会と外部講師を招いた公開研究会を軸に、アーツカウンシルさいたまのPD・POと意見や情報を交換しつつ、それぞれのテーマに関する調査を深め、成果として調査レポートを発表するというものです。2024年度は、研究会を5回、公開研究会を4回実施し、2月にはレポートを提出したほか、3月には事業報告会にて研究発表を行いました。

事業名	日 時	会 場	概 要
研究会	4/25	アーツカウンシルさいたま	進捗確認・意見交換
公開研究会#02 ※#01は2023年度に開催。	5/17	RaiBoC Hall	講師：高村 瑞世(Token Art Center 代表) テーマ：オルタナティヴスペースの運営、市民サポーターのマネジメント
研究会(現場視察)	6/9	Token Art Center、仲町の家	各スペースの視察・質疑応答
公開研究会#03	7/12	RaiBoC Hall	講師：吉田 武司(アートアクセスあだち 音まち千住の縁 ディレクター) テーマ：市民協働の文化事業
研究会	8/2	アーツカウンシルさいたま	進捗確認・中間発表に向けた意見交換
中間発表会	9/14	RaiBoC Hall	各アソシエイトの中間発表・質疑応答・フィードバック
公開研究会#04	10/26	RaiBoC Hall	講師：島原 万丈(LIFULL HOME'S総研 所長) テーマ：生活が豊かな街とは？ －活動と場に着目して－
研究会	11/8	アーツカウンシルさいたま	進捗確認・レポート提出スケジュールの確認
研究会	12/20	アーツカウンシルさいたま	進捗確認・レポート提出に向けた意見交換
公開研究会#05	2025.1/17	RaiBoC Hall	講師：芹沢 高志(さいたま国際芸術祭2023 プロデューサー /P3 art and environment 統括ディレクター) テーマ：芸術祭と市民活動の相互作用について －文化拠点と市民サポーター－
レポート提出	2025.2/12		PD・POのフィードバックを実施
事業報告会	2025.3/20	地域交流拠点「マチノバ」	各アソシエイトの研究成果の発表



10/26 公開研究会#04



2025.1/17 公開研究会#05

研究アソシエイトおよび研究内容



西田 祥子

「市民サポーター」がつなぐ さいたまアートネットワーク調査

本研究は、さいたま国際芸術祭における「市民サポーター」の役割と影響を調査したものである。市民サポーターは単なる補助的なボランティアではなく、作品制作や企画に積極的に関わり、アーティストと市民の橋渡し役を担ってきた。

調査の結果、彼らの活動は芸術祭の発展だけでなく、個々人の生活や地域社会にも大きな変化をもたらしていることが明らかになった。サポーターの関与を通じて生まれる「親密圏」は、協力者の継続的な関与を促し、地域の文化基盤を支える要素となっている。さらに、ヒアリング調査では、サポーター活動を契機にアートスペースを開設したり、職業を変えたりする人もおり、彼らの自主的な活動が公的な事業とも連携しつつ広がっていることが分かった。

本研究は、市民サポーターの持つ可能性を検証し、今後の文化政策や地域アートの発展に向けた示唆を提供するものである。



温盛 義隆

まちのアート系スペースの成立とその展開に関する研究 ～さいたま市における事例を通して～

さいたま市における現在進行形のアート系スペース事例を研究対象とし、①その成り立ちや建物の転用プロセス(スペース主宰者の視点・想い)②その後の展開、ネットワークに着目し、地域における文化芸術活動の拠点がどのように誕生しどう展開していくか③持続へ向けたキーファクターの抽出・検証を行っている。

今後さいたま市内でより多くの多様な”まちのアート系スペース”が誕生してくるだろうことも鑑みつつ、市内で実際にスペースを始める際の参考資料としての有効性も期待している。



調査レポートは
こちらから
ご覧になれます

政 策提言

概 要

さいたま市では、トリエンナーレや国際芸術祭を過去3回実施し、現在活動している表現者への支援や、文化活動が教育や福祉、街づくり、観光等多様な分野と連携していくこともイメージしながら、アーツカウンシルさいたまが設置されました。

アーツカウンシルさいたまとして、これらの現場での取り組みから得られた知見をさいたま市にフィードバックすることで、政策と施策の循環を生み、より住みやすく暮らしやすい市の実現に寄与するため、2025年3月にさいたま市へ政策提言を行いました。

主な提言内容

提言1 国際芸術祭を市のイメージ戦略や子どもたちの学びの機会として活用

～日常的な教育普及にも活用できるシンボル的な拠点が望まれる

提言2 多様な行政部局、団体と連動した施策を実施する

提言3 小さな文化拠点や人の多様性を文化政策のキーワードに

提言4 盆栽・漫画・人形・鉄道に加え、浦和画家を都市の文化的イメージに活用

～シビックプライドの醸成を意識して

提言5 実施体制の改革が望まれる(さいたま市文化振興事業団改革)

2024年度事業報告会

概要

アーツカウンシルさいたまが支援してきた文化の担い手や、運営に携わった専門家たちが一堂に会し、活動の報告とフィードバックを行いました。各事業の関係者が参加したことで、各事業を横断した参加者同士の交流促進にもつながりました。

開催日 2025年3月20日

会場 地域交流拠点「マチノバ」(さいたま市南区沼影1丁目8-1 マチノバBe ACTO武蔵浦和3階)

実施内容

活動発表①

- さいたま文化芸術都市創造助成金「文化芸術を生かした地域活性化事業」採択団体

活動発表②

- 研究アソシエイト事業 研究員
- アーティスト・イン・レジデンス事業 実施者
- 文化発信プロジェクト「空想するさいたま」実施者
- 市民参加型アートプログラム「ところでなにする?:さいたまアーツコモンズツアー2024」実施者

活動発表③

- アート資源調査(アートスペースツアー含む)
- 相談事業(レクチャー+出張相談、マッチングイベント含む)
- 関東芸術文化中間支援ネットワーク

アドバイザリーボードによるディスカッションと総評

アドバイザリーボード委員:芹沢高志、石上城行、小沢剛

交流会



研究アソシエイト発表(西田 祥子)



市民参加型アートプログラム「ところでなにする?:さいたまアーツコモンズツアー 2024」発表(浅見 俊哉)

広報・発行物

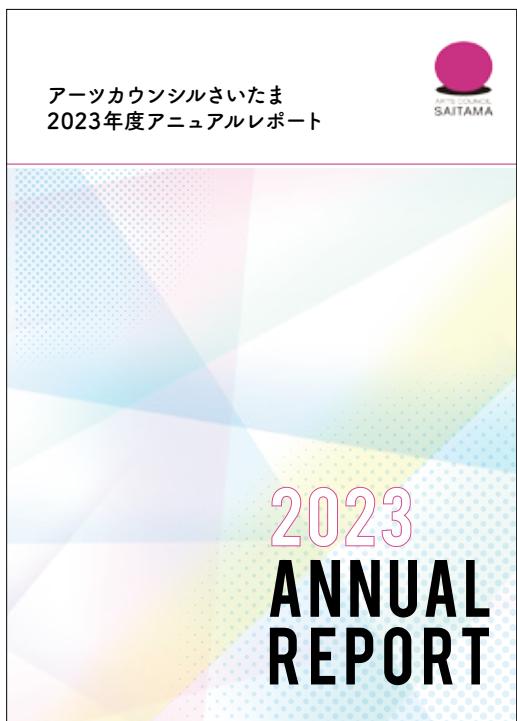
概要

アーツカウンシルさいたまの紹介を目的に「アーツカウンシルさいたまガイドブック」、アーツカウンシルさいたまの2023年度事業の報告書として「アーツカウンシルさいたま2023年度アニュアルレポート」を発行しました。また、アーツカウンシルさいたま公式ウェブサイトを開設し、事業のお知らせやアーカイブの掲載を行いました。その他、Facebook・X・note等のSNSを活用し、プログラム情報を広報するとともに、事業のアーカイブなども発信しました。

発行物



「アーツカウンシルさいたまガイドブック」
(2025年1月10日発行)



「アーツカウンシルさいたま2023年度
アニュアルレポート」
(2025年1月24日発行)

広報

「アーツカウンシルさいたま公式ウェブサイト」
(2025年3月開設)



WEBサイト



Facebook



X



note



発行物は
こちらから
ご覧になれます

プログラムディレクターより

アーツカウンシルさいたまでは、助成金をはじめとする支援事業、市民とともにつくりあげる創造事業、人材育成を兼ねた調査研究事業など、多角的な取り組みを行ってきました。それぞれの事業では、団体や個人から寄せられる多様な声に耳を傾け、現場の状況に寄り添いながら活動を支えてきました。

支援事業のうち助成事業では、支援をきっかけに継続的なプロジェクトが生まれたり、新たなネットワークへつながったりと、単発の事業にとどまらず、新たな持続のかたちへと発展する動きが見え始めています。また、助成金の交付だけでなく、活動に関する相談にも対応しており、出張相談の開催や、常設の相談窓口を通じて随時ご相談いただける体制を整えています。

創造事業では、市民が地域の特徴的な場所を通してアーティストと交流したり、市内のアート資源を訪ねてレポートを執筆したりするなど、地域に根ざした多彩な取り組みを展開しています。アーティストとの取り組みとしては、さいたま市の魅力を発信することを目的に、さいたま文化をテーマとしたデジタル作品の制作や展示を年度ごとに継続して実施。地域のレジデンス施設を活用した事業では、パフォーミングアーツの滞在制作にも力を注いでいます。

調査研究事業においては、外部から研究員を公募する研究アソシエイト事業を実施し、地域文化の調査を深めてまいりました。各分野の専門家を招いた公開研究会も実施し、市民とともに学び合う開かれた場づくりに取り組んでいます。さらに、他地域のアーツカウンシルとの交流会へ参加し情報交換の機会を広げています。

こうした事業を通じて改めて感じるのは、活動の根底には「人の力」があるということです。文化芸術を楽しみ、深めようとする市民の熱意や、自ら関わろうとする参加の意思は非常に高く、それが文化活動をつくる原動力となっています。この地に根ざす文化は、制度だけではなく、人ととの関係性や対話のなかでかたちづくられていくものです。これからも、文化芸術への支援活動を通じて、さいたまがより豊かなこころのある暮らしのまちとなるよう、心を込めて取り組んでまいります。

(プログラムディレクター 柳原絵夢・高田純嗣)